

東北ダンプの



【発行】全日本建設交運一般労働組合(略称・建交労)東北ダンプ支部
〒963-8025 郡山市桑野2-3-2
建交労福島ダンプ分会内
2023年7月1日発行 NO.13 Tel:024-933-4511 fax:024-921-1868
Email: fukusimadanpu@mtj.biglobe.ne.jp

2023年全国ダンプキャラバン東北が下記のように行われます。発注者へはダンプ規制法12条団体等への使用促進措置の徹底などを要請します。

- 7月10日(月)
 - 09:00~09:50 郡山国道事務所 (南会津地区工事の対策)
 - 11:00~12:00 福島河川国道事務所 (阿武隈川河川工事対策) (昼食)
 - 13:00~14:00 福島県土木部、農水部 (県発注工事対策)
 - 14:00~14:15 県警本部・交通指導課 (背後関係の取締強化要請)
 - 14:15~14:30 福島県行動の総括集会(県庁内)
 - 16:00~17:00 山形河川国道事務所 (置賜地方水害激甚指定工事対策) (仙台泊)
- 7月11日(火)
 - 09:10~09:20 県庁ロビー集合・打ち合わせ
 - 09:30~10:30 宮城県土木部 (12条団体の説明、県発注工事対策)
 - 10:40~10:50 宮城県警察本部 (背後関係の取締強化要請)
 - 11:00~12:00 東北地方整備局 (工事監視官事務連絡文書の徹底) (昼食)
 - 13:00~14:00 仙台河川国道事務所 (関係発注工事対策)
 - 15:30~16:30 宮城南部復興事務所(丸森町) (関係工事対策)
 - 16:30~16:40 宮城県行動の総括集会(駐車場) (仙台泊)
- 7月12日(水)
 - 10:00~11:00 北上川下流河川事務所 (関係工事対策) (移動途中で昼食)
 - 14:00~14:45 岩手県・県土整備部 (12条団体の理解促進)
 - 15:10~15:30 岩手県警・交通指導課 (背後関係の取締強化要請)
 - 16:10~17:00 岩手河川国道事務所 (関係工事対策)
 - 17:00~17:10 岩手県行動の総括集会(駐車場) (盛岡泊)
- 7月13日(木)
 - 10:30~11:30 湯沢河川国道事務所 (関係工事対策) (昼食)
 - 13:50~14:50 秋田河川国道事務所 (関係工事対策)
 - 16:10~17:10 能代河川国道事務所 (関係工事対策)
 - 17:10~17:20 秋田県行動の総括集会(駐車場) (大館泊)
- 7月14日(金)
 - 11:00~12:00 青森河川国道事務所 (関係工事対策) (昼食)
 - 13:00~14:00 青森県・県土整備部 (12条団体の説明)
 - 14:00~14:10 青森県行動の総括集会、解散



鹿島建設、清水建設、大林組の株主総会で法令遵守を求める！

全ての公共工事と大型民間工事では「ダンプ規制法第12条団体の優先使用措置をとること」が、元請会社の義務となっています。

鹿島、清水、大林の3社は、これらの件で発注当局から指導を受けても、強大な政治力にものを言わせて、言うことを聞きません。現在の斉藤国交大臣は、清水建設の社員から国会議員になった人です。

自民党の各派閥には、ゼネコン団体から多額の政治献金が流れており、実質的に日本の建設行政を動かしているのは大手ゼネコンです。国交省や県庁の役人が、様々な問題点を指摘しても「面従(めんじゅう)腹背(ふくはい)」の態度ですから、発注者だけに詰めよっても事態は改善しません。

今回は、鹿島建設には6人、清水建設には4人(上の写真)、大林組には2人が参加して、ダンプ交通安全対策に関する契約事項を遵守せよと迫りました。

鹿島建設では、建交労から5人が発言しましたが、社長や担当役員からひと通りの回答がありました。特に「全国の大規模工事が7ヶ所あるが、2ヶ所では建交労ダンプを優先使用している」との回答がありました。しかし、5ヶ所では使用していない訳です。

清水建設では4人、大林組では2人が発言しました。清水建設の宮本会長は日本建設業連合会の会長でもありますから、この人に建交労の主張を聞かせる事は、特に重要な意味を持ちます。

今回の建交労発言の特徴は、ただ大きな声で追及するだけでなく、会場内に失笑が起きるような皮肉も含めた発言もあった事です。鹿島建設では、秋田の田中書記次長がトップで指名され、森谷顧問はなかなか指名されません。

ここ数年、田中さんがトップで指名される訳は、恐らく穏やかな顔つきのせいだと思います。森谷さんがなかなか指名されないのは、社長の真ん前に陣取り、大きな声でヤジを飛ばしているからだだと思います。

株主総会は、会場入り口に何十人もの社員が並び、一種独特の雰囲気です。そして年に一度だけ、社長や土木本部長と直接やり取りできる唯一の機会です。株を取得すれば誰でも参加出来ますから、来年は現場の仲間の参加も期待するところです。

晴釣雨読(せいちょううどく)

夏の気配を感じる季節、カツオとアユは誰でもが好む初夏の楽しみである。▼片や黒潮に乗って北上する縁起の良い「勝魚」。もう一方は清流の香りを漂わせるアユ(香魚)どちらも酒肴には判別が付くが、初夏の季節ならは「一口福」にふさわしい季節の食材である。▼日本のアユの存在は、1823年に来日したドイツの医学者で博物学者のシーボルトが、オランダに送った生物抄本と絵図の中に含まれ、それらの資料をまとめた「日本動物誌」により、鮎は世界にその存在を知らされた。▼鮎は万葉の昔から愛されてきた魚で、日本最古とみられるアユ釣りの記録が「古事記」にある。漁獲が目的とより、出陣の前に行われた神事のようなものであったとされている。▼鮎釣りは6月から各地で解禁され、釣りファンにとって心待ちの季節となるが、もう一つの楽しみ方「口福」がある。▼清流に棲む鮎に備わった本来の味を、いかにして味わうかであり挑戦してはいかかでしょう。▼陶芸家、書家、そして美食家として知られる「北大路魯山人」は、このほか鮎を好んで食べたと言われている。魯山人が関わる料理店の会報に、鮎の食べ方として登場する。▼素材の持ち味を生かし、本来備わっている美味しさを損なうことなく、いかにしてそのまま味わうかであると言う。▼魯山人流の味わい方ポイント①大きき3〜4寸(9〜12cm)。②6月の鮎。③一番美味しいのは、はらわたである。④激瀬の鮎を産地で食べる。⑤姿の美しさが愛でたいから一流の料理店で食べる。▼現在は魯山人の時代に比べ、輸送や冷蔵の技術が進歩し、養殖魚も美味しく食べられるようになり、日本各地に地方特有の調理方法を受け継がれている。近場で旬の「口福」に出あえるよう願っています。高橋 溪峰



健康チェック…肥満度診断

年に1回の健康診断を皆さんは実施していると思います。毎年の健康診断のチェックから病気の早期発見が出来ますが、健康診断から日々の生活や習慣を見直す心がけが大切です。休肝日を設けたり、散歩などの運動を心がけ、健康でこそ仕事ができる事を確認してみてください。

簡単にできる肥満度の計算式を示しました。体重と身長の数値を入れれば、肥満度がわかります。

▶BMI値の求め方

$$\frac{\text{体重 (kg)}}{\text{身長 (m)}^2} = \text{BMI値}$$

▶BMIの基準値

【肥満度分類】			(日本肥満学会)	▶腹囲の基準値
18.5未満	18.5以上、25未満	25以上		男性：85cm未満 女性：90cm未満
低体重	正常	肥満		

BMI (kg/m ²)	判定	WHO基準
18.5未満	低体重	Underweight
18.5～25.0未満	普通体重	Normal range
25.0～30.0未満	肥満（1度）	Pre-obese
30.0～35.0未満	肥満（2度）	Obese class I
35.0～40.0未満	肥満（3度）	Obese class II
40.0以上	肥満（4度）	Obese class III



所得に関係なく、加入する家族の数で保険料が決まる建設国保

⇒国保から切り替えませんか

いままで、市町村国保に加入していたが、支払う保険料が高くてびっくりした人が多いのではないのでしょうか。中には今年の請求が60万円もきたという人もいます。

市町村国保は仕組み上、家族の所得額の合計、人数で保険料が決まります。そのため、所得額が多くなれば保険料も高くなります。今では最高額が年間104万円を限度に保険料が決められています。

一方、建設国保は所得に関係なく保険料が決められており、本人一人であれば、年額272,400円(50歳以上～64歳以下)です。これに家族がふえれば、年額一人あたり64,800円～88,800円が加算されます。

この際、比べてみてはいかがでしょうか。くわしいことは、組合まで、おたずねください。

宮城班集会

6月6日(火)宮城班の班会議を岩沼市で開催し、13人の組合員(うち専従2人)の仲間が参加しました。(写真上)

現在、組合の使用促進闘争で合意した現場の第1丸森トンネルと第3丸森トンネルに8人名の組合員が就労しています。宮城班では配車については、班長と副班長がより多くの組合員が関われるよう、広く連絡を取り一定期間で交代して就労することにしました。配車は、非常に大変な作業なので、宮城班全体で協力し合いながらやっていくことを確認しました。また、不満や問題点があれば、定期的に班会議を開催し班会議の中で議論することを確認しました。

7月11日の東北ダンプキャラバン宮城県行動への参加も議論しました。布田班長からも「こうやって、ダンプの単価の改善ができるのは、組合活動の成果であり、宮城班としても積極的に参加していこう。」との力強い話もあり、平日の行動となるので、休みを取って5人参加することを確認しました。

会津班集会

6月8日(木)喜多方市で会津班の集会を行い、7人の組合員(うち専従2人)の仲間が参加しました。(写真下)

会津地区では、現在2ヶ所の使用促進現場に就労しています。この成果は、これまで運動を続けてきたからこそその結果であることを再確認しました。

また、毎年恒例行事の東北ダンプキャラバン福島県行動は、今年「30回目」を迎えます。県内の公共工事等の現場で使用促進措置につながる重要な役所交渉で、「我々ダンプの切実な要求を訴える場」なんだと、仲間の積極的な参加をあらためて求めました。

熱中症にご用心



コマメに水分とって

ムリせず体調を管理



オダマキの種